土木関連分野からの話題提供

土木学会技術者教育プログラム審査委員会委員長
土倉泰

JABEEの必要性　2つの柱

- 技術者教育の質の保証
- 教育システムのスパイラルアップ

いま問題と感じられる点

① 審査チーム編成時の苦労
② スパイラルアップが実現できているのか

①審査チーム編成時の苦労

- 審査員…原則65歳未満かつ６年以内に審査実績のある方

	教育機関	産業界（公務員を含む）
2019年	133人	55人
2023年	100人	35人
	25％減	36％減

- 依頼しても2人に1人は辞退される（事務的な連絡では無理なのかもしれない）
- 産業界の方を1人も含まないチームができることがあった

審査員確保のための対策

- 建設系CPD協議会のポイントを土木学会が付与
（プログラム点検書の確認、実地審査、報告書作成）

- 土木学会理事に対してJABEE審査員の推薦を依頼してはどうか

産業界所属の方々が審査に参画する意義

- 若い人（大学生）をどう育てるべきか、産業界で必要とされる技術者像を教育プログラムに直接伝えられるので、土木業界の活性化に資する。
- 教育界所属の審査員は、どうしても自分の所属プログラムが受審するときのことを考え、はっきりと否定的意見を述べにくい。その点、産業界所属の審査員は、中立の立場から悪いところをはっきりと指摘できる。
- 審査チームに加わって、いろいろな考え方を学ぶ機会になるとともに、普段なかなか得られない人間関係の構築ができ、仕事への意欲向上が期待できる。

技術士会との連携強化をお願いしたい

- 産業界所属の審査員は、悪いところをはっきりと指摘できる。

↓

- 認定・審査調整委員会に技術士会の方に出席していただき、忌憚のないご意見をだしてもらえるとありがたいと思う。

②スパイラルアップができているか

例えば「学習・教育到達目標における水準設定」（基準1）

- 25年前から重要視されている事項
- どういう状況で何をどの程度できるかについて具体的に明示していないプログラムがいまも多数存在する印象
- 「…の基礎能力をもつ」や「…する力を養う」という表現のみ
- 基準満たす？ この程度なら問題ない？ 見逃し？ 審査慣れ？
- Good　Practice　がでてこない
- もちろん到達目標の表現法が限定されるべきものでないけれどCEFRはわかりやすい

段階	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧
熟達した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（ブリティッシュ・カウンシル ウェブサイトより）

まとめ

1）産業界（技術士会）との連携強化をお願いしたい。

2）学習・教育到達目標の水準設定問題にみられるように、審査チームが敢えて取り上げないと、分野別委員会や認定・審査調整委員会に表立ってでてこない課題があるのではないか。審査慣れにより、スパイラルアップが実現できていない状況が懸念される。